

「全てが必然」



2017. 8. 18

No. 4

校長 川上慎治

届け、この思い…

7月25日、29日の両日、本校の2名の生徒が弁論大会へ出場しました。

演題は、「みんなが幸せになる時間」と「皆の意見があるから」。将来の夢について語ったり、意見の食い違いは相手をより良く理解するチャンスであると考えを伝えたりと、それぞれが様々な経験から感じ取ったり学んだりしたことを表現しました。自分の思いを相手にうまく伝えることは、生きていく上で、とても大切なことです。貴重な体験をこれからの生活に生かしてくれることを願っています。以下に弁論文の一部を紹介いたします。

『～ 意見の相違、衝突は、相手と自分自身の理解のチャンスであり、新たな、そしてより深い関係性を築く出発点なのです。私たちは毎日多くの意見の中で暮らしています。しかし、聞こえてくる表面的な「言葉」にただ反応するだけではいけません。**相手から出てきた言葉の奥底に、どんな思いがあるのだろうか**と想像し、**その気持ちや考えを読み取る**ことが重要

です。私は今回それに気づけたばかりです。これから意識して人と接していきたいと思います。そして、私自身も相手のことを考えた言葉を使い、自分の意見を伝えられる人間になりたいと思います。』



祝甲子園初出場！「おかやま山陽高校」に学びたい

甲子園出場をかけた戦いは岡山史上初の決勝戦再試合となり、おかやま山陽高校が甲子園出場の切符を勝ち取りました。近年、甲子園常連校の多くが全国から優秀な中学生を集める中、おかやま山陽高校はベンチ入りの18名全てが岡山県内の中学校出身だそうです。しかも、野球部員は近隣の鴨方駅で地元の方々と挨拶を交わしながら清掃を行っているそうです。誰からも応援していただけるような振舞いが甲子園へ導いてくれたのかもしれませんが、10日の甲子園では、地元の方々をはじめ、たくさんの方々からの声援で、すばらしい戦いを繰り広げてくれました。

気持ちの良い挨拶、地元に貢献する態度、我が早島中学校でも参考にしていきたいと思っています。